

駅からぶらぶらと中山道(旧国道 17号)の倉賀野宿へ。旧宿場町の面影を残す建物が点在する静かな街並みぶらぶらし、時間も早くオープン前でしたが待ち受けていた「古商家おもてなし館」に立ち寄ることが出来ました。中ではいろいろと話を聞ききして(ここ倉賀野は平安、鎌倉時代の倉賀野氏居城が廃城となり、江戸時代の街道整備で江戸から 12 番目の宿場で烏川舟運拠点と日光例幣使街道の追分として繁栄) 中山道・日光例幣使街道の分去れに、そこには閻魔堂、常夜灯そして道標、馬頭観世音等が往時をしのばせている。

ここから日光東照宮までが日光例幣使街道(江戸時代朝廷から日光東照宮例大祭に幣帛を奉獻するための勅使(日光例幣使)が通った道をいう)です。しばらく歩くと高崎線の踏切です。そして国道 17 号線をこえて群馬の森へ突き当たり、当時はこのまま進んだのが現在は原子力研究所で道路は「観音山古墳」の方へ迂回して玉村宿に向かう。当時街道から少し離れて見えていた小山に見える古墳を旅人はどう思って眺めていたのかと思う事や赤城・榛名・妙義の山々を始めしゅういが遠くまで見渡らせる四季折々の街道の風景は旅人のところを十分に和ませたことと思う。

車では見えないいろいろなものが見えるのもぶらり歩きの面白味です。また玉村町は街道の形態そのままで中心付近の神明宮の大きいことと参拝者が見えることにただただ驚き。

今年は台風の発生が何故か多く土日の天気の流れあり何かと心配した天気も晴天の夏日で素晴らしい一日になりました

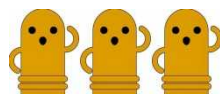
ことに感謝。(記 新井晴夫)

群馬県立歴史博物館

皆さんは群馬の森にある「群馬県立歴史博物館」をご存知でしょうか。

上野三碑に代表されるように、古墳時代の群馬は大変栄えていたようで、あちこちの古墳から出土された埴輪の数の多さに驚かされます。

桐生近郊の千網谷戸の耳飾り・相沢忠洋が発見した黒曜石の矢じりは言うに及ばず、県内の縄文時代化から古墳時代までの出土品が数多く展示され、保存状態の優れた埴輪は国宝に指定されています。歴史に興味のある方、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。そこは「魅力の小宇宙」一見の価値あり、請け合いです。



(岸田信克 記)

綿貫観音山古墳

群馬県立歴史博物館を見学したのち、歩いてすぐ近くの綿貫観音山古墳を訪れる。この古墳は墳丘、横穴式石室共に公開され、また、案内人もいて詳しい説明を聞くことが出来ます。

長さ 97m、幅 64m、高さ 9.6 の大きさと 6 世紀後半に造られたもので、幸いにも盗掘されず、墳丘に置かれた埴輪は無造作に転がっていたそうです。墳丘の上に登ると想像以上に大きく、遠く上毛三山が見渡せ、周りの建物がなかった時代には目立つ構築物だったと思われます。

横穴式石室の狭い入り口を抜けると奥は人が立てる高さでかなり広い空間になる。ここには中国、朝鮮から渡来した品物をはじめ、豪華で多種多様な考古学上とても貴重な副葬品が置かれていました。